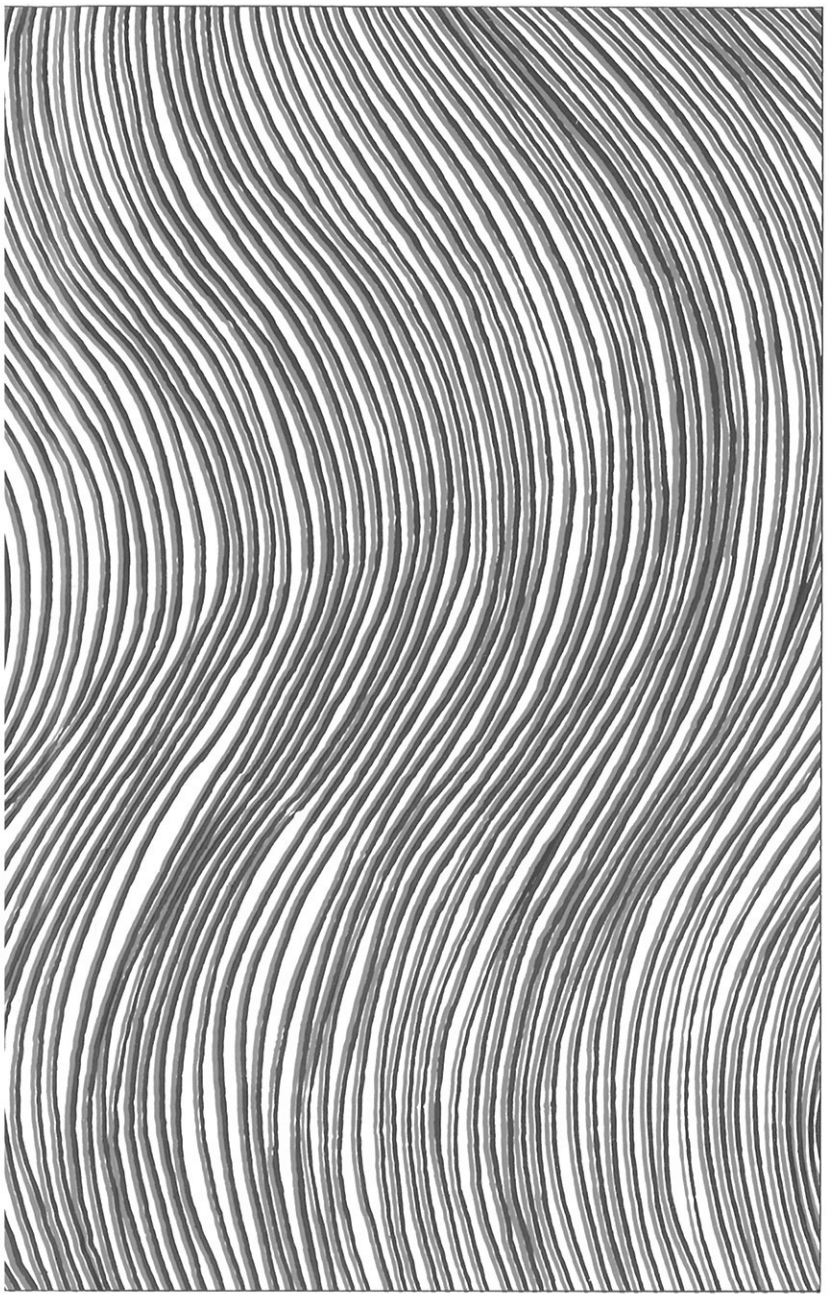
ISSN 0288-2124

砂防と治水

Vol.41.No.1 2008.4

182

特集：2008年度砂防がめざすもの



社団法人 全国治水砂防協会

日野川の水環境と歴史的砂防施設を活用した砂防パークづくり

◆田　中　保　士*◆

1．はじめに

福井県南越前町古木のアカタン（赤谷川）砂防堰堤群を整備保全し，砂防ミュージアム資源として利活用した「アカタン砂防エコミュージアム」は，福井県による見学路整備工事も行われ，一先ず完成した。ここまで努力して到達させた「田倉川と暮らしの会」は，この度，国土交通省「手づくり郷土賞」地域活動部門を受賞した。地道に持続してきた住民と都市住民の良好な交流連携活動の成果だと思う。

本報告は，これまでの経緯と考え方，現在取り組んでいる「砂防パークづくり」活動について述べる。

2．交流から発見した山村の災害文化

アカタン砂防堰堤が，すべて藪の中から発見された平成16年，「砂防フィールド・ミュージアムを考えるシンポジウム」を開催した。新潟，岐阜，富山，福井，京都の砂防交流シンポジウムである。パネラーに，新潟県新井市西野谷の万内川砂防公園で活動する「砂防文化財を活かす地区懇談会」，

むら人は大学の砂防専門家と最初から交流してきた

＊ Yasushi Tanaka　田倉川と暮らしの会，日野川流域交流会事務局長，環境文化研究所代表

京都府山城町不動川砂防で活動する「山城町ふるさと案内人の会」，富山県「立山カルデラ砂防博物館」，そして「田倉川と暮らしの会」，コーディネーターは，岐阜県上宝村京大防災研究所の澤田助教授。澤田氏は「気の付かなかった物を掘り起こして，後世に遺していくこともだいじだが，活動や生活の経緯，瞬間的な『もの』も遺していく工夫があるといい。また，いろんな人の意見を聞く交流もだいじです」と述べた。

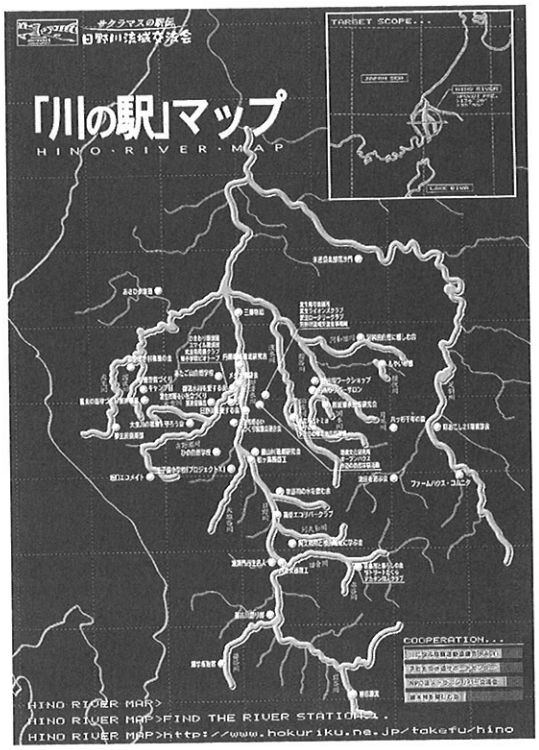
その日の交流会では，むら人は伝統盆踊り「ヤンシキ」で歓迎した。音頭取りのゴンパ古老がうたうもの哀しい文句には，継承されてきた山村の風俗がものがたられている。新潟からは，西野谷に古くから伝わる，男だけが踊る伝統芸能「春駒」が披露された。

衣装，道具など準備しての民俗踊りに圧倒された

西野谷泡立山の山のげ（当地ではそう呼んでいる）は，明治35年に発生した。流れ出た泥土によって一人の行方不明者と家屋24戸を破壊流出したことが，当時の区長の日記に記録されていたという。土砂災害を経験した，むらとむらが顔を合わせ，山ぬけ（アカタンではそう呼んでいる）と山のげ，むらの民俗踊りで交流する中に，有形無形の遺産を遺し伝えていこうとする，共通の災害文化を生き生きと感じた。このシンポジウムを契機に，フィールド・ミュージアムからエコミュージアムへと発展した。

3．活動を支える交流連携と支援

日野川流域交流会は，流域で活動する50の「川の駅」のネットワークになっている。田倉川と暮らしの会は，平成10年から連携している（川の駅マップ参照）。全国との交流も活発に行動し，川に学ぶ体験活動協議会の会員として，平成16年，全国大会メーン会場をアカタンエコミュージアムに誘致した。そのほか，学会や関係大会に何度も出かけて活動発表してきた。



この活動を支えてきたのは，川の駅相互の協力，武生商工会議所の事務局支援，役場の施設提供や職員の奉仕，そして大学や官公庁に勤務する専門技術者の参画であった。必要財源は，主に河川環境管理財団，近畿建設協会の助成金および企業の支援のおかげで運営してきた。

4．水源集落の砂防パークづくり

南越前町の南方に位置する南条山地は，滋賀県・岐阜県境と接し，九頭竜川水系日野川の水源である。奥山にあった数集落は，豪雪や土砂災害，ダム建設などですでに廃村になっている。過疎化に追われる山村集落のむら人は，南条山地に点在する明治の石積み砂防堰堤群，歴史に遺る古道，

天然のブナ林や水源の景観など，これら貴重な資源に関心を高め，「水源集落」としての新たな価値と誇りに気づいた。水源集落なかまが手を繋ぎ，地域の振興をめざして「砂防パークづくり」に取り組んでいる。

領域に点在する歴史的石積み砂防堰堤群は，現在６谷で確認した。自然の巨石による野面谷積み（地元では亀甲積みと呼んでいる）・空積みで，谷ごとに特徴がある。例えば，アカタン砂防堰堤は，女性的な穏やかな曲線美で造られているが，高倉谷川砂防堰堤は，男性的な積み方で圧倒される。大河内川砂防堰堤は，現代デザインを思わせる，きちんと計算された美しさがある。砂防パークの石積み堰堤は，良い材料で，優れた技術とデザインで，大勢の人によって造られた，労働の美を感じる巨石文化財である。自然の地形地質や景観にもうまくつり合ってなじみ，谷間に鎮座する様の堰堤に向き合うと，いつまでも役に立っている逞しさに心が安らぐ。

この資源が，むら人の誇りであり，都市住民を引き寄せる魅力となっている。すでに，高倉谷川，大谷川，大鶴目谷川，広野入谷・大河内川に活動組織ができた。昨年は，高倉谷川とアカタン大鶴目谷川の２箇所の砂防回廊踏破と，水源のみち探検を実施した（ポスター参照）。

５．ふりかえり

これまで，都市住民と交流連携しながら，アカタン砂防エコミュージアム活動を展開してきた。全国に向けて活発に活動報告もしてきた。その成果が実り，都市の少年や一般市民の砂防への関心が高まり，頻繁に見学に訪れるようになった。しかし，住民の関心は都市住民ほど高まってきたとは思えない。イベントや都市住民との交流が，いつも同じむら人だけに限られていたと反省している。

今後は，活動の情報も，施設の掲示板やHPだけではなく，住民全戸に行き渡る仕組みを考えた砂防パークづくり行動計画を立て，活動していきたい。